

- タイトル： 書はがき家 書道家(デザイン書道 創作書道)利久さんに密着インタビュー
 - 読者対象： 日本の文化に興味・関心の高い 20～60 代の訪日外国人
 - ニーズ： 日本の伝統文化に迫りたい！より書道について詳しくなりたい！
 - ゴール： 書道に興味を持って実際体験したい・作品を購入したいと思うこと。
-
- 見出し：① 特別企画 密着インタビュー
 - ② 書道家 利久さんプロフィール



1. 〈特別企画〉 書道家 利久さん 対談インタビュー

Q 書道家になられたきっかけについて教えてください。

初めて書道に触れたのは、小学校2年（8歳）の時でした。当時は学校の授業の一環で学んでおり、書道で「自分の想いや個性を表現する」というのではなく、「お手本どおりの正しい形の文字を書く」ということが目的の書道の授業でした。その後は高校時代に選択授業で書道を選択しておりました。でもこの時は、学校の授業で学ぶという程度のことです。現在こうして書道家として活動しているとは全く想定できなかったものです。

そして、大切な人に贈る書ハガキ（絵葉書のように、葉書の裏面に、自分の書道の作品を掲載）の制作から第二の人生が始まりました。実際に、現在の書道家としての自分の姿に繋がっているのは、6年前の48歳の時のことです。これまで仕事と育児で超多忙だったため、趣味といえばスポーツぐらいだったのですが、文化系的な趣味も持ちたいと思いました。そこで30年前の高校時代に授業でやっていた書道を再開してみようと思ったのがきっかけです。

書道といっても「お手本どおりの正しい形の文字を書く」という学校の授業の書道ではつまらないので、「自分の想いや個性を、「筆と墨と余白」で自由に表現し、作品に仕上げる」という創作書道及びデザイン書道に挑戦しようと思いました。

仕事の合間をぬっては、日本の四季に合わせて年4回くらいのペースで、四季折々をテーマにして作品を制作してきました。和紙に書いた作品をプリンタのスキャン機能で電子ファイルを作成し、葉書の裏面に印刷して「書はがき」も作りました。私はもともと筆まめで、手書きの手紙やハガキをご縁をいただいた方に心を込めて送ってきましたが、この「書はがき」を作ってから、手書きでメッセージを書いた「書はがき」を送っております。手書きのはがきや手紙を受け取ることが非常にすくなくなった日本の日常生活で、私の「書はがき」を受け取った方には、手書きの良さと、四季を感じる作品で喜んでいただいております、これが、作品制作のモチベーションや励みになっています。この活動が現在まで続いております。



【中秋の名月】

Q 書道の魅力について教えてください。

私にとっての書道は、「筆と黒い墨」及び「黒と白の余白」で、自分の想いや個性を自由に表現するものです。

書道の作品を作るときは、真っ白な和紙と向き合い集中することで、多忙で煩雑な日常生活から異次元の世界へいくことができます。日常生活では主に左脳を使っているのではと思いますが、書道の作品制作では、右脳がフル回転しているのではと思います。

書道は、自分と向き合い、自分の想いやイメージや想像の翼をおもっきり広げて、自由に表現することで、日常生活とは異次元の体験ができること、これが書道の魅力だと思っています。



Q 普段の生活で手作りのハガキを贈るのは大変じゃないですか？

書道に限らず、「手で書いたもの」には、キーボードで打った活字やパソコンソフトで電子的に作った文字には無い「特別な温かさや優しさや心」があると思います。

スマホ全盛の時代、ねっ転がっていても歩いていても、トイレやお風呂でも、スマホでごく簡単にメールの文章を打つことが出来ます。間違えても簡単に削除や修正もできてとても便利です。でも便利になったために、失ったものも沢山あります。

これに対して、手書きの場合には、ちゃんと姿勢よく座って、紙と向きあい、葉書を贈る人のことを想いながら、誤字や変な文章になるとやり直さないといけないので集中して

取り組みます。すなわち、「手書きの手紙やハガキ」は、「あなたのことを集中して想って書いた、素敵な心のこもった時間のプレゼント」なのです。相手にも「24時間忙しいなかで、その中の貴重な時間を私のためにわざわざ割いて、この手書きの手紙や葉書を書いてくれたんだなあ」と伝わり、喜んでもらったり、感動してもらったりできます。

さらに手書きの文字には個性が溢れます。私は、母や兄や妻や子供や友人の書いた手書きの文字を判別することができます。手書きの文字を見ることで、母や兄や妻や子供や友人のことを思い浮かべ、思いやることもできます。これは、スマホやパソコンのキーボードで作った活字ではできないことです。

以上の理由から、出来る限り手書きのハガキや手紙を、心こめて贈るようにしています。

ちなみに、手書きのハガキを贈るのは面倒で大変だなあと思う人へ、絵葉書を使うことをアドバイスいたします。

絵葉書なら、裏面には写真や絵があるので文字を書く必要はありません。表面には相手の住所と氏名を書く必要があるため、文章を書くスペースは小さいものとなります。文章を書くスペースが小さいので、手書きに慣れていなくても、何とかメッセージを書くことができるのではと思います。手書きのハガキは、「あなたのことを想って書いたのよ」という素敵な心のこもったプレゼントですので、是非トライしてみてくださいね。



【満開を少し過ぎ、散り始めた桜】

Q どんな人に書道を楽しんでもらいたいですか？

すべての外国人の方に、書道を楽しんでもらいたいと思います。

いろんな外国人の方に聞くと、書道でつかう「太い筆、黒い墨、和紙」はこれまで経験したことがなく、大きく文字を書くこと、墨の香り、黒と白のコントラストと余白を考えることも含めて、すべてが初体験となります。

百聞は一見に如かず、まずは、気軽に書道にトライして楽しんでいただければと思います。

私のワークショップでは、まずは好きな言葉（英単語）を伺います。例えば、beauty, peace など好きな言葉（英単語）を聞いて、これを漢字に直して、作品に仕上げます。

「とにかく自由に気軽に楽しむこと」をモットーにして、一緒に楽しんでおります。自由に楽しむことが一番なので、黒い墨以外のカラフルな墨も使ったりします。

日本人の方にもお勧めしたいです。ほとんどの日本人の方は、小学校時代の書道の授業で、書道に苦手意識、アレルギー、トラウマを持ってしまっており、小学校の書道の授業が終われば、その後の人生では書道とはまったく無縁になってしまいます。これは、小学校の書道の授業が「お手本どおりの正しい形の文字を書く」ことを目的としているからです。個性は封印され、授業自体もまったく面白味がないので、90%以上の生徒はこれで書道がいやになってしまいます。

私のワークショップに参加された日本人の方には、「書道って、こんなに楽しいものだとは知らなかった。自分の個性やイメージを大切に自由に表現できて、とても楽しかった。文字がうまいとか下手だとかも個性の一つで、とにかく楽しむことが一番、ということがよくわかった」といった感想をよくいただきます。



Q. 良い作品を作るコツはありますか？

筆で書いた文字や線には、書いたときの気持ちや心の状態が表れます。自分の込めたい想いやイメージを思い浮かべながら、とにかく楽しんで自由にリラックスして書けば、生き生きとした個性あふれる作品になります。

Q 海外に滞在しているときにも書道は楽しめますか？

墨と筆があれば楽しめますが、墨と筆がなくても、もちろん書道を楽しめます。

私は、作品を作るときに、書道用の筆ではなく、絵画用の筆、ペンキを塗る刷毛、机のゴミなどを掃除するための小さなほうき、食器を洗うスポンジ、木の枝など、いろいろなものを使います。書道用の墨が無くても、絵の具でも、万年筆のインクでも大丈夫です。

体験型のワークショップの希望があれば、スカイプをつないでやってみるのもおもしろいと思います。まだ、やってみたことはありませんが、やってみる価値はあると思います。

Q 体験や作品を購入できる場所を教えてください。

ワークショップは、東京の自宅などで行っています。出張のワークショップも可能です。作品は、東京の原宿のデザインフェスタギャラリーなどで販売予定です。作品は英文のHPからも観ることができるので、是非ご覧ください。また、ワークショップのご希望があれば、メールをいただければと思います。

オフィシャル公式サイト

日本語 <http://rikyu.main.jp/>

英語 <http://rikyu.main.jp/english/index.html>

メールアドレス rikyu.syohagakika@gmail.com



Q 今後の展望を教えてください。

日本文化の一つである書道に触れていただき、楽しんでいただくとともに、ご自分で作った書道の作品を日本旅行の記念として持ち帰って戴くためにも、ワークショップを通じて参加者と一緒に書道を楽しみたいと考えています。そして、書道の魅力を沢山の方に広めていきたいです。



少しでも多くの外国人の方が書道を楽しめるように、私はお手伝いし続けることができればと思っています。また、外国人の方にも感動いただく作品も作り続けていきたいとおもいます。



Q 利久さんの作品の特徴を教えてください。

作品は日本の美しい四季をモチーフに書くデザインが多いです。例えば、外国人の方にも人気がある桜については、「満開をすぎて散り始めた桜」とか「満開の大きな老木」など、具体的なイメージをもち、これを見た方が、桜に関する自分の思い出にひたったり、ちょっとした幸せ感を持っていただけるような作品を作っております。

また、押し花芸術の世界的権威の杉野宣雄先生にコラボしていただいた作品（押し花と書の作品。前掲の「桜」「夢」など。）、写真と書道を組み合わせた作品などにも取り組んでおります。

外国人の方に非常に感動して喜んでいただいている作品もあります。

外国人の方の名前を、同じ発音の漢字にして、作品に仕上げしております。

例えば、下の写真の作品ですが、これは我が家にホームステイした Mr. ZACK のために作った作品です。ZACK さんは、世界的に有名なアメリカの「The YOUNG AMERICANS」というミュージカルの団員ですが、彼の夢は、「ミュージカルのプロデューサーになること」です。

このため、ZACK の「ZA」に「座（エンタティメントの世界）」の漢字をあてて、「CK」には「駆（ゴール（ミュージカルのプロデューサーになること）に向かって駆け抜ける）」の漢字を用いました。

ZACK = 座駆

座：ZA = a group entertained : エンタティメントの世界

駆：CK = move quickly toward a goal : ゴール（ミュージカルのプロデューサーになること）に向かって駆け抜ける

座 駆

ZACK さんと T シャツ



書はがき家 書道家(デザイン書道 創作書道) 利久 プロフィール

三重県伊勢市出身 1964 生まれ 男性

四季折々をイメージした作品に定評があり、東京都内で個展・展示会を複数開催している。

【オフィシャル公式サイト】

日本語 <http://rikyu.main.jp/>

英語 <http://rikyu.main.jp/english/index.html>

【四季折々の花や自然に対する想いや感動を大切に作る書のアーティスト】

デジタル社会になった今でこそ、心のこもった手書きの手紙を大切にしたいと思ってきました。四季折々の花や自然をテーマに、自分なりの想いや感動を込めて制作する「書はがき」を発案し、以来、ご縁をいただいた方々に贈り、書はがき家として活動しております。

私のモットーは、「書はがきを受けとった方が、わかりやすくイメージができ、笑顔になったり、思い出を振り返ることにより、ちょっとした幸せ感を持っていただけるような作品を制作する」ことです。

本年（2018年）より、外国からの旅行者や日本にお住まいの外国の方に、日本文化に親しんでいただくために書の作品制作のワークショップ（日本人の方も含みます）もはじめました。

【個展開催 作品展への参加など】

■ 押し花アートの世界の権威である杉野宣雄氏の作品展に参加
(杉野宣雄氏の押し花アートと私の書のコラボ作品を展示)

- ・ 2014年12月 於 日本橋三越本店本館（東京）
- ・ 2015年1-2月 於 湯元ニセコプリンスホテルひらふ亭（北海道）
- ・ 2016年12月 於 日本橋三越本店本館（東京）
- ・ 2018年12月 於 日本橋三越本店本館（東京）

■ 個展を開催 2015年6月 於 HOTEL CLASKA（東京）

■ 個展を開催 2016年3-4月 於 国営昭和記念公園（東京）

■ 個展を開催 2017年8月 於 HOTEL CLASKA（東京）
